



# 国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

No. 281

2023.9▶10

発行 2023年9月1日  
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

実行委員長インタビュー

三尾 稔 先生

・・・ 特別展「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」・・・

## 神さまの近しさと 人びとの熱量を感じとってほしい。



—特別展について教えてください。

昨年八月と今年三月に、特別展でも上映する映像の取材のためにインドを訪れました。コロナ禍中のインドでは、祭礼はおろか、寺院を参拝することすら固く禁じられていたので、神さまとの向き合い方にどんな変化が生じているのだろうかと気になっていました。ところが、現地で目にしたのは、熱狂的に祭りを執りおこなう人びとの姿。コロナ禍を経ても、変わらず厚い信仰心を持ち続けていることを実感しました。

多神教的な宗教として知られるヒンドゥー教では、神さまの姿を表した神像が、神と人が交流するための重要な媒体となっています。儀礼的な場面で用いられる立像や仮面のみならず、絵画や印刷物、刺繍などの装飾品、マツチやカレンダーなどの日用品に至るまで神さまの姿が表されます。ヒンドゥー教の信仰世界では、神さまそのものが



会期：2023年9月14日(木) - 12月5日(火)  
会場：国立民族学博物館 特別展示館

神像に宿るといってえ方が見受けられます。人びとはそれ自体が神さまの身体であるかのように、水や油を垂らしたり、着飾らせたり、時には口元に食べ物を運ぶなどして、神像に働きかけるのです。

今回の特別展では、神像を媒体とする神と人との交流に焦点をあて、その営みを通して、ヒンドゥー教の世界観や多様な神さまの存在を紹介したいと考えています。

—人びとはなぜ神さまとの交流を求めるのでしょうか。

交流の核心には、神さまへの「愛」があります。人間が能動的に愛を示すことで神さまが応え、願いを聞き入れてくれるのだと認識されているのです。この思想は、神話「マハーバーラタ」のなかで、ヴィシヌ神の化身であるクリシュナ神が示した語りに基づいているのですが、仏教が幅をきかせていた当時

### 企画展・エントランスホールイベントもお楽しみに！

企画展

#### カナダ北西海岸先住民のアート ——スクリーン版画の世界

会期：9月7日(木)～12月12日(火)  
会場：本館企画展示場

関連イベント 友の会講演会【大阪】

10月7日(土) / 第5セミナー室  
講師：岸上 伸啓(民博教授)

※会員はオンライン配信あり！詳細はP5をご覧ください。

エントランスホールイベント | 版画展 |

#### 田主誠 Museum of Dreams ——みんぱくと歩んだ版画家の創作世界

会期：9月7日(木)～11月28日(火)  
会場：本館1階エントランスホール

『月刊みんぱく』や『民博通信』などの挿画を手がけた田主誠さんの作品展です。会期中に3期に分けて展示替えをおこないません。エントランスホールは無料ゾーンです。この機会にぜひ足をお運びください。

の南アジアで、ヒンドゥー教が一気に拡がるきっかけのひとつにもなったと言われています。親が子を愛おしむように、もしくは愛する相手を熱烈に焦がれたり、しもべが主人に無償の奉仕をおこなったりするように、神さまに愛を示すことが重要なのだとされています。

系統の異なる神さまの場合では、神さまが持つ生命力を畏れ、讃えらるという愛の示し方もありますが、いまでも前者の方法が広く親しまれています。

### — 神さまへの働きかけがわかる展示資料について教えてください。

展示は四つの章に分けて構成しました。例えば第二章の「神がみとの交感」では、クリシュナ神の誕生を祝うお祭り、幼な子の姿をしたクリシュナに服を着せてブランコに乗せて慈しむ、その様子を展示しています。また、着飾るための装飾品を、第三章の「交感の諸相」でも紹介しました。

神さまが描かれたポスターは、壁に飾られるだけでなく、スパンコールや布を貼って美しくデコレーションされることがあります。その痕跡ののこる資料や、目を強調したり、ポーズをとってこちらに顔を向けたりする神さまが描かれた画像資料も展示しています。ヒンドゥー教では、神さまと視線を交わすことが重視されますが、それは目を合わせることで神さまも人を認識し、双方方向にコミュニケーションを取ることができるといふ発想があるから。こうした働きかけの具体的な例を、第三章

で紹介しています。

ちなみに、神像が南アジア

アだけでなく、グローバルなモノの流通のなか

で制作されていたこ

とも伝えたいと思い、

神さまを描いた日本

製のタイルがインド

に輸出されていたこと

や、印刷にヨーロッパ

の技術を取り入れたこと

なども紹介しました。

IT先進国のインドでは、デジ

タル技術を介した神さまとの交流が登

場しているのですが、特別展でもAR

でスマートフォンにガネーシャ神を呼

び込み、お供えの擬似体験ができる仕

掛けを用意しました。

### — 展示を通してどんなことを伝えたいですか。

そもそも、わたしが研究者としてヒ

ンドゥー教に関心を持ったのは、日常

のあらゆる場面で神さまの存在が感じ

られることに感動したし、それを不思議

にも感じたからなんです。

病気や貧困、天災など、世の中には、

人間の力ではどうにもできないことが

ありますが、それでも生きたい、願い

を叶えたいという気持ちを感じて、人

びとは強く持つています。それを表現

するにはどうすれば良いか。日常のあ

ちこちに神さまを見いだし、喜ばせて

むしろ神さまを人間が操って願いを聞

き入れてもらおう。日常のなかに神さ



環境に配慮した素材で作られたガネーシャ像。展示場でスマートフォンに現れるのはこちらの神さま。撮影・増田大輔 撮影協力・株式会社エスバ 国立民族学博物館蔵

まが頻繁に現れる背景には、そんな人びとの心情があるのかもしれない。

わたしが調査をしているインドは、経済発展が著しく、科学技術の分野でも世界をリードする存在になりつつあります。生活様式も都市的なものに変化しているのに、神がみへの信仰の深さは全く衰えを見せません。科学的な知識と宗教的な知見が切れ目なく存在する、そこに魅力を感じています。

ヒンドゥー教の神さまって、悪魔や人間に負かされたりして、なんという人間らしい側面があるんです。神さまが近い存在であること、人びとが愛をもつて神さまに接していること。人びとが持つその熱量も含めて、展示場で感じとっていただけ嬉しそうです。

(聞き手・事務局)

9月17日(日)には東京で、12月2日(土)には大阪で特別展関連の友の会講演会を開催します。詳しくは本紙5ページもしくはホームページをご覧ください。

今年も開催！  
万博記念公園シンポジウム



日本万国博覧会記念公園シンポジウム2023

## 「日本人」の内と外 ——異文化接触を語り合う

日時：2023年10月28日(土) 13:30~16:30(開場13:00)  
会場：国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール(講堂)  
登壇者：橋爪 節也(大阪大学名誉教授)、井上 章一(国際日本文化研究センター所長)  
ウスビ・サコ(京都精華大学 全学研究機構長)、吉田 憲司(国立民族学博物館長)

大阪万博(EXPO'70)が生み出したレガシーである万博記念公園と国立民族学博物館が協働し2025年大阪・関西万博まで毎年開催するシンポジウム。シリーズ3回目となる今回は、1970年大阪万博およびそれ以後の50年間の日本における異文化接触とその受容のあり方を検証し、日本人にとっての「内」と「外」の認識をあらためてふりかえるとともに、これからの時代に求められる私たちの世界とのかかわり方について4名の研究者が議論します。

参加費無料  
定員350名、要事前申込(先着順)  
オンライン(ライブ配信)あり。  
当日、千里文化財団HP内の  
催し詳細ページ(右記)より無料で  
ご視聴いただけます。

催しの詳細・受付フォーム

[https://www.senri-f.or.jp/  
expo\\_symposium2023/](https://www.senri-f.or.jp/expo_symposium2023/)

受付期間 ▶▶▶ 2023年9月4日(月)~10月20日(金)



【募集】第85回体験セミナー

# 日本文化の多様性をさぐる

—— 佐々木高明が歩いた九州の山村を訪ねる

同行講師：池谷 和信(民博教授)

日 時：2023年11月23日(木・祝)～11月25日(土)

申込締切：2023年10月20日(金)

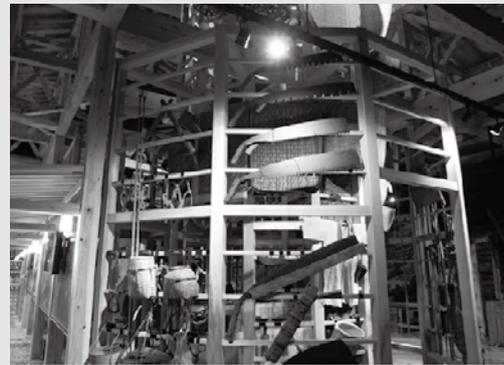
友の会会員は9月1日(金)、それ以外の方は9月15日(金)より受付開始。

参加費：99,700円(行程中の移動費、食費、宿泊費【相部屋】、見学費を含む)

募集人数：15名(最少催行人数10名)(着先順)

※維持会員・正会員・家族会員以外の方は、正会員もしくは体験会員にご登録ください。

※正会員の同伴者の方も会員受付期間内にお申し込みいただけます。



ヒストリアテラス五木谷の総合展示室内に据えられた「民具の塔」。提供・ヒストリアテラス五木谷

## 旅程

### 集合：鹿児島空港(10時15分頃)

熊本県五木村へ。五木村の自然や歴史、暮らしを紹介するヒストリアテラス五木谷を見学。同施設では、**みんなくとの共催展示**(テーマは「九州山地の山の文化」を予定)を開催しています。その後、**佐々木高明が調査した集落**に足を運びます。夕食は山の幸をふんだんに取り入れた**山里料理**をお楽しみください。(八代市泊)

11月23日(木・祝)

地域の歴史や暮らしを紹介する**五家荘平家の里**へ。郷土芸能と結びついた地鶏・久連子鶏も飼育されています。**樅木の吊り橋**に立ち寄り、宮崎県椎葉村へ移動。急傾斜の立地に椎葉特有の家が建ち並ぶ**十根川集落**を散策後、椎葉村の生業や郷土芸能などを紹介する**椎葉民俗芸能博物館**を見学します。夕食は**山里料理**をいただきます。(椎葉村泊)

11月24日(金)

終日椎葉村で過ごします。狩猟や養蜂、かつて中心の生業であった焼畑など、**地域独自の生業の知識**をもつ方々の話をうかがい交流を深めます。椎葉独特の寝殿造が特徴の**鶴富屋敷**を見学して帰路につきます。

11月25日(土)

### 解散：熊本空港(16時半頃)

※諸事情により行程を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

## ご参加にあたってのご案内

- ・道幅の狭い山間部への訪問となるため、全行程**小型バス**での移動となります。
- ・地元の方々との交流、山の暮らしを体感していただくことを重視し、部屋数の限られた民宿を利用します。全日ともに**男女別・3～5名程の相部屋**になり、職員が同室となる場合もあります。

★参加者のみなさまには参考図書『図説 焼畑の民——五木村と世界をつなぐ』を郵送します。

## 受付フォーム

<https://www.senri-f.or.jp/85taiken/>

みんなく友の会ホームページ内にあります。



焼畑研究の第一人者として知られる、みんなくくの第二代館長・佐々木高明。彼の焼畑研究の原点となった調査地が、九州山地に位置する熊本県五木村です。彼は「ここの調査を出発点に、日本列島の文化の多重性や多様性をとらえました。」

この秋、五木村の文化交流施設「ヒストリアテラス五木谷」で、みんなくとの共催展示が計画されています。二〇二〇年に同施設で実施した「佐々木高明の見た焼畑——五木村から世界へ」は、翌々年「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」と改めて内容を更新し、みんなくの企画展として開催されました。五木村での展示は、この企画に次ぐ二度目となります。この機会に、佐々木が調査に赴いた五木村、五家荘や宮崎県椎葉村を訪ね、日本文化の多様性の一端を山の暮らしからさぐります。

訪問先は、いずれもかつて焼畑を中心的な生業としてきた山村です。高度経済成長期以降、日本の焼畑は急速に衰退しましたが、自然と調和した生業の知識や、山や森への畏敬の気持ちは今も人びとの暮らしのなかで維持されています。

国家を軸に据える従来の歴史観では、農耕といえど水田稲作に重きが置かれ、焼畑は原始的な農法として低く位置付けられてきた印象がありますが、二〇〇〇年以上の歳月にわたり人類の食糧生産を支えてきたその営みと知識には、持続可能な社会のあり方を考えるヒントが隠されているのではないのでしょうか。

講師は展示の監修を務める池谷和信先生です。地元の方々との交流を重視した三日間を計画しています。ぜひご参加ください。

## 旅のご参考に！

佐々木高明の焼畑の記録を集めたデータベース「焼畑の世界——佐々木高明のまなざし」が、みんなくホームページ内で公開されています。刊行物とあわせてご活用ください！



- ・『図説 焼畑の民——五木村と世界をつなぐ』
- ・『季刊民族学』177号
- 特集「焼畑と文明——五木村から世界へ」(以上、千里文化財団)

## お問い合わせ・お申し込みについて

お申し込みは、左記受付フォームもしくはお電話をご利用ください。申込締切日を目安に、参加手続き書類・パンフレットをお送りします。正会員の方は同伴者1名まで同条件でお申し込みいただけます。友の会会員以外の方は、正会員もしくは体験会員にご登録ください。詳しくは国立民族学博物館友の会までお問い合わせください。

研修企画

公益財団法人千里文化財団 「国立民族学博物館友の会」 係  
TEL：06-6877-8893 ※受付時間：平日9:00～17:00

旅行企画  
実施

株式会社阪急交通社 大阪団体支店営業2課  
観光庁長官登録登録旅行業 第1847号  
TEL：06-4795-5928 ※営業時間：平日10:00～17:30

## クレジットカード決済を始めました!

友の会年会費のオンラインクレジットカード決済サービスが、2023年8月3日(木)よりスタートいたしました。ぜひご利用ください。

詳細はこちら

[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/about/join/#online/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/#online/)



## 提携施設優待についてのお知らせ

万博記念公園「EXPO'70パビリオン」は、別館オープンによる混雑が想定されるため、国立民族学博物館友の会会員様向けのパビリオン入館料割引は、2024年3月31日(日)までの間、休止となります。新割引料金適用については次年度以降、詳細がわかり次第ご案内いたします。

## 館内催し 会員先行予約のご案内

みんなくゼミナール、みんなく映画会、研究公演には、友の会会員のみなさまを対象に先行予約がございます。該当期間中に友の会事務局までご連絡ください。先行予約枠が定員に達した場合は、一般受付をご利用ください。

館内催しの詳細はこちら! <https://www.minpaku.ac.jp/event/>



### みんなくゼミナール

第537回

#### ベトナムの黒タイの神話

講師 榎永 真佐夫(民博教授)

日時 9月16日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

※受付期間は終了しました。

■一般受付

・オンライン予約

期間: 9月13日(水)まで

・当日参加受付(定員80名)

### みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

#### 最後の渡り鳥たち

解説 松原 正毅(民博名誉教授)

司会 菅瀬 晶子(民博准教授)

日時 9月30日(土)13:30~16:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

※受付期間は終了しました。

■一般受付

・オンライン・電話予約

期間: 9月22日(金)まで

【特別展「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」関連】

第538回

#### 暮らしの中に現れる神がみ

——現代ヒンドゥー教徒の生活の場から

講師 三尾 稔(民博教授)

日時 10月21日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

期間: 9月11日(月)~15日(金)

■一般受付

・オンライン予約

期間: 9月19日(火)~10月18日(水)

・当日参加受付(定員80名)

【特別展「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」関連】

#### ガンジスに還る

司会・解説 三尾 稔(民博教授)

日時 11月3日(金・祝)13:30~16:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員350名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

期間: 9月25日(月)~9月29日(金)

■一般受付

・オンライン・電話予約

期間: 10月2日(月)~10月27日(金)

【企画展「カナダ北西海岸先住民のアート——スクリーン版画の世界」関連】

第539回

#### 北アメリカ北西海岸地域の先住民アート

——シルクスクリーン版画を中心に

講師 岸上 伸啓(民博教授)

日時 11月18日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

期間: 10月16日(月)~20日(金)

■一般受付

・オンライン予約

期間: 10月23日(月)~11月15日(水)

・当日参加受付(定員80名)

### 研究公演

【特別展「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」関連】

#### バジャン

—— 神々に捧げる信愛の詩

出演 ミーター・パンディット(北インド古典音楽声楽家、Somaiya大学教員)

林 怜王(タブラ奏者)

ナカガワ ユウジ(サーランギー奏者)

解説 田中 多佳子(京都教育大学教授)

司会 三尾 稔(民博教授)、虫賀 幹華(京都大学白眉センター特定助教)

日時 9月23日(土・祝)13:30~15:50(開場13:00)

会場 みんなくインテリジェントホール(講堂)(定員400名)

##### 申込期間

■友の会先行受付(定員80名)

※受付期間は終了しました。

■一般受付

・オンライン・電話予約

期間: 9月15日(金)まで

### お申込方法

■友の会先行受付

【申込先】千里文化財団友の会事務局

電話 06-6877-8893 (9時~17時、土日祝を除く)

■一般受付

みんなくホームページ内のイベント予約サイトよりお申し込みください。

いずれも申込先着順。参加無料。ご本人を含む2名様までお申し込みいただけます。

ただし、みんなく映画会、研究公演のご参加には、会員証または展示観覧券が必要です。当日11時より会場前にて入場整理券を配布します。

## 9・10月のイベントスケジュール

### ■特別展

9/14(木)~12/5(火)  
「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」

### ■企画展

9/7(木)~12/12(火)「カナダ北西海岸先住民のアート——スクリーン版画の世界」

### ■エントランスホールイベント

9/7(木)~11/28(火)  
「田主誠 Museum of Dreams  
——みんなと歩んだ版画家の創作世界」

### ●友の会講演会【オンライン聴講は要事前申込】

9/2(土) 門馬一平(\*)  
10/7(土) 岸上伸啓(\*)  
※10月は終了後、展示見学会あり

### ●みんなくゼミナール【要事前申込】

9/16(土) 樫永真佐夫、10/21(土)三尾稔

### ●みんなくウィークエンド・サロン

9/10(日) 岸上伸啓、10/1(日)竹村嘉晃・三尾稔  
10/8(日) 永田郁・三尾稔  
10/15(日) 北田信・南真木人  
10/22(日) 福内千絵・南真木人  
10/29(日) 齋藤玲子

### ●みんなく映画会【要事前申込】

9/30(土)「最後の渡り鳥たち」

### ●その他の催し

- 9/23(土・祝) 研究公演「バジャン——神々に捧げる信愛の詩(うた)」【要事前申込】
- 9/24(日) ワークショップ「ヒンドゥー教の讃歌『バジャン』を歌ってみよう」【要事前申込】
- 10/9(月・祝) ワークショップ「インドの日常の祈り床絵(コールド)を描く」【要事前申込】
- 10/28(土) 日本万国博覧会記念公園シンポジウム2023「『日本人』の内と外——異文化接触を語り合う」(\*)
- 10/28(土)「ペーパークラフトでトーテムポールをつくらう」【要事前申込】

### 【館外での催し】

### ●友の会 東京講演会【要事前申込】

9/17(日) 会場:モンベル渋谷店  
竹村嘉晃

- ◆予約の必要な催し、すでに満席になっている催しがございます。また、会場とオンライン配信の併用(\*印)で実施する催しもございます。詳細はみんなく、ならびに友の会のホームページをご確認ください。
- ◆イベントの参加には必ず会員証をお持ちください。

## 友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

### ■大阪

- ・会場(定員90名)、オンライン配信ともに事前申込先着順です。
- ・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。

### ■東京

- ・事前申込先着順です。オンライン配信はございません。
- ※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。(参加費500円)

## 大阪

### 第541回

## 【企画展「カナダ北西海岸先住民のアート——スクリーン版画の世界」関連】 アート制作から見た北アメリカ北西海岸先住民 の社会・文化の変化

講師：岸上 伸啓(民博教授)

日時：10月7日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

※終了後、展示の見学会をおこないます(要会員証もしくは観覧券)。

北アメリカ北西海岸地域に住む先住民の伝統文化は、カナダ政府の同化政策によって19世紀後半から急激に衰退しました。しかし、1951年にポトラッチ儀礼の禁止が解除されると、先住民はトーテムポールやスクリーン版画などの制作を通して文化復興運動を推進しました。彼らのアート制作と社会・文化変化の関係についてお話します。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/541tomo/>



### 第542回

## 【『有明海のウナギは語る——食と生態系の未来』出版記念講演】 有明海のウナギから考える、生態系の未来

講師：久保 正敏(『季刊民族学』編集長、民博名誉教授)

日時：11月4日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加 ②オンライン(ライブ配信)での参加

私は中尾勘悟氏による『季刊民族学』(163号、166号)の寄稿に触発され、ウナギが水辺生態系の指標だと知り、水辺の自然保全の重要性を学び、1冊の本を上梓しました。山から海に至る河川流域での資源の循環に基づく、持続可能な地域社会を目指して、いくつかの地域で実験が始まっています。本講演では淀川流域で進む、天然ウナギ復活をねらった植林運動も紹介します。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/542tomo/>



## 東京

### 第135回

【特別展「交感する神と人——ヒンドゥー神像の世界」関連】

## 神になる人びと

——南インド・ケーララ州のテイヤム祭祀

講師：竹村 嘉晃(平安女学院大学准教授)

日時：9月17日(日)13:30~15:00(開場13:00)

会場：モンベル渋谷店5階サロン(定員50名)

協賛：株式会社モンベル

※オンライン配信はございません。

※6月の東京講演会と会場店舗が異なります。気をつけてご来場ください。

南インド・ケーララ州北部のヒンドゥー世界では、不可触民男性の身体を介して村人の前に顕現する神霊(テイヤム)を祀った祭儀が盛んにおこなわれています。本講演では、祭儀空間で神霊と交感する村人の様子にふれながら、カーストの伝統的職業として神霊の役割を世襲的に受け継いできた「不可触民」たちの今日の姿を紹介します。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/135tokyo/>



## ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



■第537回■2023年6月3日(土)

## 文化のなかでまもられるキツネザル

—マダガスカルにおける霊長類と人との関係

市野進一郎(民博特任助教)

今回の友の会講演会では、マダガスカルに生息する霊長類(キツネザル)と地域の人びととの関係について、南部の事例を紹介しました。マダガスカルの動植物は固有種の割合が高く、約100種いるキツネザルはすべて固有種です。約2000年前と推定される人の移住によって、この関係は始まりました。焼畑や家畜の導入などによって生息地である森林が消失したという見方もありますが、講演では、人びとがどのように絶滅危惧種であるキツネザルと共存しているかを紹介しました。そこに、キツネザルの保全に活かせるヒントがあるのではないかと考えるからです。



ベレンティ保護区のアオキツネザル  
撮影・栗林愛、2009年

南部で残存する森林の多くは地域コミュニティによって保護されてきたものです。さらに、この地域の人びとは禁忌であるためにキツネザルを食べることがありません。こうした文化的規範や文化に関連した状況がキツネザルを保全することにつながりました。もうひとつ重要と思われるのが人びととタマリンドとの関係です。川辺林の優占樹種であるタマリンドはアオキツネザルにとって最も重要な食物です。この地域の人びとはタマリンドの伐採を禁止してきました。タマリンドが経済的、文化的に重要な樹種であるだけでなく、旱魃(かんばつ)のときに食べられる救荒食になるためだと思われる。タマリンド

とその種子散布者であるアオキツネザルの両方を保護してきた結果、人びとが利用できるタマリンドも増えていくという、良い循環の三者関係が成立しているといえます。

■第538回■2023年7月1日(土)

## つないでほどこく—アイヌとシサム

北原モコトウナシ(北海道大学教授、民博特別客員教員)

大阪をはじめ西日本の方々にとつて、先住民アイヌは、関心はあっても会う機会ほとんどない、という存在ではないでしょうか。多くの人が(おそらく)持っているそうしたイメージを変えることが、本講演の目的のひとつでした。

かくいう私も、東京都生まれのアイヌです。明治に日本に統合されて以来、津軽海峡を越えた移住が増え、沖縄や奄美、九州、四国、大阪など各地に住むアイヌ、あるいは海外在住/生まれのアイヌも多くいます。これは、西日本であつても、シサム(日本人)だけがくらす地域はないという点でもあります。また、琉球や奄美、韓国など外国ルーツの住民も多く、多民族が尊重し合う社会の実現は、日本全体の課題です。まずは他者の存在と、自分の立ち位置を知ることが最初の一步です。

尊重の対極をハラスメントとすると、それが起こらない社会の実現には、何よりも知識が必要とされます。ここでの知識とは、ハラスメントの内容、ハラスメントをする強者・マジョリティのあり様と、その歴史に関する情報です。



多様化する現代アイヌのアイデンティティ  
出典・北海道大学 アイヌ・先住民研究センターブックレット第12号

近代は、女性や性的少数者など様々な属性の排除と抑圧、支配が進んだ時代です。支配には、自己・他者の分離と単純化、序列化が必要です。アイヌも近代に異質な劣等民族のひとつとされ、同時に単純化によってシサムの多様性も忘れられました。その歴史をふまえて双方の文化を見直すと、消されていた多様な連続性に気付き、他者像・自己像をアップデートできます。

本紙掲載の情報は、2023年8月21日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

### 国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)

FAX：06-6878-3716

e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報



ホームページ  
<https://www.minpaku.ac.jp>



Facebook  
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official>

国立民族学博物館友の会 最新情報



ホームページ  
[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/)



Facebook  
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>